

フィンランドの音楽教育 II

—小学校音楽科教材に関する考察 1—

田 原 昌 子

はじめに

近年、OECD経済協力開発機構が実施しているPISA国際学力調査の結果は、「フィンランドは教育大国である。」ということ全世界に知らしめることになった。日本では、「フィンランド・メソッド」として、国語科・算数科・理科といった科目で、フィンランドでの教育方法が、著書・報告などで紹介される機会が増加している。筆者はピアノ音楽や音楽教育の研究を通してフィンランドとの交流を持ち、2004年からフィンランドの幼稚園、小学校、中学校の教育現場を視察し、教師の教育力の高さに感心させられている。では、フィンランドの小学校音楽科において、子どもたちは何を学ぶのか、学習内容で特筆すべき事柄は何であろうか。

本研究に先立つ「フィンランドの音楽教育 I」¹⁾で、フィンランドの小学校音楽科教育には次の3つの特徴があることを報告した。その特徴とは、「幅広いジャンルの音楽を採り上げていること」、「リズム教育を重視していること」、「ヨーロッパやアメリカの様々な音楽教育法を導入していること」である。

本研究では、小学校音楽科教育のスタートとなる1-2学年の学習内容を知ることは、フィンランドの学校教育における音楽科学習の根幹を知ることであると考え、小学校1-2学年の音楽科学習を取り上げる。まず、音楽科学習教材の一つとして、教育現場で多くの教師が使用している小学校1-2学年の音楽科教科書を翻訳し、学習内容を理解する。次に、日本の小学校1-2学年音楽科教科書の学習内容との比較を通して、フィンランドと日本の共通点や相違点を明らかにする。さらに、先行研究で報告したフィンランドの音楽科教育の3つの特徴が、教科書の学習内容と如何に対応しているのかを検証する。

I. フィンランドの小学校音楽科教材としての教科書

1-1 フィンランドの学校教育と音楽科教科書の扱い

フィンランドでは日本と同様に7歳から就学がスタートし、日本の小・中学校に相当する基礎学校は、1学年から9学年までの義務教育であるが、その設置形態は様々である。年間授業日数はおよそ190日、年間およそ950時間、週当たりの授業時間数や各教科の授業時間配分について最低時間数の基準はあるが、その実際の設定は、地方自治体や各学校によって、地域の状況などを考慮に入れてなされている。

具体的な科目の区切りや、どの学年で何をどう学ぶかは、地方自治体と学校で具体化され、さらに、何の教材を用いてどのように指導するかの指導法は、各学校や各教師に委ねられている。教師たちは指導目標や内容を話し合い、教師一人ひとりが教材を選択し、あるいは作成し、研究を重ねた指導法で日々の授業を実践している。

フィンランドには日本のような教科書検定制度²⁾はなく、どの教科書を採用するかは教師に委ねられ、校長が承認して教科書は使用される。教科書は教材の中の一つに過ぎず、教師は授業で必ず教科書を使用する必要はない。しかし、子どもの心身や音楽的能力の発達が考慮され、また、フィンランドの歴史や環境、文化を踏まえた良い教材であるという見地から、多くの教師たちは、教科書を選択し、その中から指導に適した事項や曲を選択して授業を展開している。

1-2 小学校1-2学年用音楽科教科書について

フィンランドの教育現場で用いられる機会の多い音楽科教科書の学習内容は、いかなるものだろうか。この研究においては、筆者が視察した小学校の授業で、使用頻度の高かった『MUSIIKIN mestarit 1-2』OTAVA社(2008)を取り上げ、学習内容と採用曲138曲について分析する。さらに、日本の小学校音楽科授業で使用されている教科書の一つである『小学生のおんがく 1』『小学生の音楽 2』教育芸術社(2010)の学習内容と、採用曲55曲との比較検討を行い、フィンランドの小学校1-2学年音楽科学習内容の特徴を探る。

II. フィンランドと日本の小学校1-2学年音楽科学習内容

2-1 『MUSIIKIN mestarit 1-2』の目次と構成

『MUSIIKIN mestarit 1-2』は、224ページで構成されている。この教科書では、Lassiとその家族、仲間Roniとその家族が中心になって、様々な場面や話題に合った音楽に触れながら、12の単元³⁾が展開するという構成になっている。

目次は、季節や動物、天体や諸外国に目を向けた単元名で構成されており、目次から直接的に音

楽の学習内容を理解することは困難である。(表1) 各単元の学習内容については、本文を翻訳して分析する。

2-2 各単元の学習内容

目次のみでは推察できない各単元の学習内容を理解する為に、12の単位ごとの学習内容に関する表記について翻訳し、文末添付資料として表2から表13にまとめた。

なお、表中の()内に、子どもたちが学習する内容に

についての意識を加えた。また、図は、学習内容に関する表記で必要と考えられる箇所を教科書から引用した。(表、図は文末に添付 図のpは教科書からの引用ページ)

各表から読み取ることのできる各単元の学習内容を、歌唱・器楽・音楽づくりという音楽の活動と、リズムや拍、音の流れなどの音楽の構成要素別に整理すると、以下のようになる。

単元1 <YKSIN, KAKSIN, YHDESSÄ 一人で、二人で、みんなで> 文末添付資料 表2・図1

リズムや拍	音の流れ
拍やリズムの基本である心臓の鼓動から、一定の速さで刻まれる拍を知り、フィンランド語の名前の音節と4分音符ター・8分音符2つティティ・4分休符タウコのリズムサインを表す言葉を対応させ、拍を感じる。	声の出し方を工夫することで、声がどのような流れになるかを、描かれた絵や線で感じる。(図1)

単元2 <KESÄ MUISTOIKSI 思い出の夏> 文末添付資料 表3

リズムや拍	音の流れ	音符について	音楽のジャンル
昆虫の名前をフィンランド語の音節に合わせて刻み、2拍子の拍をどのように分割するか、拍とリズムの関係を知る。	単元1で学習した発声による音の流れを、昆虫の飛行の絵や旋律の流れに対応させて感じる。	音符の各部の名称や記譜法を知る。	季節の音楽…夏から初秋にかけての自然や生活の音楽に触れる。

単元3 <TYÖKALUPAKKI 道具箱> 文末添付資料 表4

リズムや拍
2/4拍子、3/4拍子、4/4拍子とリズム…拍子記号の意味を各拍子4小節の列車(小節を意味する)で表し、その列車の中に書かれた四分音符や八分音符、四分休符を組み合わせた基本的なリズムを学ぶ。

表1 『MUSIIKIN mestarit 1-2』目次・和訳

MUSIIKIN mestarit 1-2 <音楽の達人1-2>			
Yksin, kaksi, yhdessä	一人で 二人で みんなで		6
Kesä muistoiksi	思い出の夏		24
Työkalupakki	道具箱		42
Syksen sävelet	秋のメロディ		56
Eläinten sekakuoro	動物たちの混声合唱		78
Setua vai totta	おとぎ話か本当のお話か		96
Linnunraden laidalla	天の川そばで		118
Talven lumoa, kevään iloa	冬の魅力、春のよこほ		130
Omilla mailla, omilla kylillä	自分の国から、自分の村から		144
Maailma on kylä	世界は一つの村		160
Soitto soi	楽器は鳴り響く		172
Juhlitaan!	お祝いしましょう!		186
Hakemisto	曲の見出し		222

単元4 <SYKSYN SÄVELET 秋のメロディ> 文末添付資料 表5

リズムや拍	音の強弱	音楽のジャンル
色々なリズム…海中生物や乗り物の絵を見て、自分でイメージしたことを言葉に表し、その音節に合わせたリズムを刻む。	強弱記号とその意味…太陽、風、雨粒、雷の様子で天候の様子を表し、その様子を強弱記号と照合して学ぶ。	季節の音楽…秋の自然や生活の音楽に触れる。

単元5 <ELÄINTEN SEKAKUORO 動物の混声合唱> 文末添付資料 表6

歌唱	音楽づくり	音符について
色々な高さの声…色々な動物の鳴き声を絵や図で表し、声の高さにはソプラノ、アルト、テノール、バスに対応させる。	8分音符2つ、4分音符、4分休符を組み合わせた自分のリズムに、c1(1点ハ音)・e1(1点ホ音)・g1(1点ト音)の3つの高さの音を組み合わせて音楽を創作し、歌詞をつける。	音符の音名と音の高さ…5線上にc1からc2(2点ハ音)を対応させ、特にc1・e1・g1の音の位置を確認する。

単元6 <SATUA VAI TOTTA おとぎ話か本当のお話か> 文末添付資料 表7

音色	音楽の形式	音楽づくり
妖精の絵からどんな特徴のある音かを考え、言葉に表してみる。	AB形式、ABC形式、ロンド形式の構成を理解し、既習曲の中からAB形式、ABC形式の曲を見つける。	ABACADAのロンド形式のAの部分みんなで共通のリズムとし、それ以外の部分のリズム4拍分を各自で創作して繋ぎ、皆で一つのリズム音楽を創作する。

単元7 <LINNUNRADAN LAIDALLA 天の川のそばで> 文末添付資料 表8

音の強弱	音楽の形式
カノン形式を用いて、言葉や朝の目覚まし時計といびきの音に強弱を加え、カノンの音楽に、表現の拡がりをつける。	1月から12月までのフィンランド語のリズムや旋律、さらに朝の目覚まし時計といびきの音で、カノンの形式を体験する。

単元8 <TALVEN LUMOA, KEVÄÄN ILOA 冬の魅力、春のよこび> 文末添付資料 表9

リズムや拍	音楽のジャンル
拍子と指揮法…2拍子、3拍子、4拍子の拍子を取りながら、それぞれの拍と音の長短の組み合わせによってできるリズムの関係を理解し、さらに各拍子の指揮法を学ぶ。	季節の音楽…冬から春にかけての自然や生活の音楽に触れる。

単元9 <OMILTA MAILTA, OMILTA KYLILTÄ 自分の国から、自分の村から> 文末添付資料 表10・図2

調性	和声	器楽	音楽のジャンル
カンテレの音楽を通して長調・短調という調の特徴を感じ取る。	カンテレの弦を押さえることによってできるI・IV・Vの和音の響きを感じ取る。	フィンランドの伝統楽器カンテレ…カンテレ各部の名前やその奏法を学ぶ。(図2)	フィンランド民謡やサーメのヨイク ⁴⁾ …自分の国や村で歌われている歌や、カンテレを伴奏に歌うフィンランドの民謡に触れる。

単元10<MAAILMA ON KYLÄ 世界は一つの村> 文末添付資料 表11

和声	音楽のジャンル
CDEFG(ドレミファソ)の5つの音を指揮者の指示による順番で、カノン形式で重ねていくことによって生じる和音の響きの変化、和声を感じ取る。	世界の音楽…取り上げられている10曲中8曲が諸外国の民謡で、色々な国の音楽に触れる。

単元11<SOITTO SOI 楽器は鳴り響く> 文末添付資料 表12

器楽	音楽のジャンル
色々な楽器の研究…音楽室にある色々な楽器を、その特徴別に分類し、どんな音が出るのかを学ぶ。	有名な作曲家、バッハやモーツァルト、ベートーヴェン、チャイコフスキー、シベリウスの音楽に触れる。

単元12<JUHLIMAANI! お祝いしましょう!> 文末添付資料 表13

音楽のジャンル
色々な行事の音楽…色々なお祝いや行事で使用頻度の多い歌に触れる。(曲集としての扱いと考えられる。)

2-3 『小学生のおながく 1』『小学生の音楽 2』の目次と構成

日本では、教科書検定に合格した教科書を主たる教材として、各学校で授業が実践されている。ここでは、『小学生のおながく 1』『小学生の音楽 2』の教科書を取り上げ、1-2学年音楽科の学習内容を分析する。

表14 『小学生のおながく 1』『小学生の音楽 2』の目次抜粋

「小学生のおながく 1」	「小学生の音楽 2」
<p>こころの うた(きょうつうきょうざい) ひらいた ひらいた かたむり うみ ひのまる</p> <p>うたで なかよしに なろう みんなといっしょにうたったりあそんだりして、なかよしのともだちができるかな。</p> <p>はくを かんじとうろ はくにあわせてうたったりをうたったりすることができるかな。</p> <p>はくに のって リズムを うたう はくをかんじながらうたったりリズムをうたうことができるかな。</p> <p>けんばんハーモニカを ふこう ぞからそのけんばんのいのちをおぼえて、きれいなおとでけんばんハーモニカをふけるかな。</p> <p>いろいろな おとに したしもう いろいろなおとにのみをすまして、きれいなおとをみつけれかな。</p> <p>ようすを おもいうかべよう ようすをおもいうかべながらきいたり、はめんのようすにあうようにうたったりすることができるかな。</p> <p>おとの たかさに きを つけて うたおう おとのたかさをたしかめながらどれみでうたえるかな。</p> <p>たがいの おとを きこう ともだちのこえやがっきのおとをききあいながら、みんなでえんそうできるかな。</p> <p>おながくを たのしもう いままでにならったことをいかにして、みんなでたのしくえんそうしたりきいたりすることができるかな。</p> <p>ものがたりと おながく</p> <p>みんなで たのしく</p> <p>けんばんハーモニカ/ハーモニカ</p> <p>【国歌】きみがよ</p>	<p>こころの うた(きょうつうきょうざい) かくれんぼ 虫のこえ タやけこやけ はるが きた</p> <p>うたで ともだちの わを ひろげよう みんなといっしょになかよくうたったりあそんだりして、たかさんのともだちができるかな。</p> <p>はくの まとまりを かんじとうろ 2びょうしと3びょうしのちがいをかんじられるかな。</p> <p>音の たかさに 気を つけて うたおう 音のたかさをたしかめながらどれみでうたえるかな。</p> <p>はくに のって リズムを うたう 2びょうしや3びょうしをかんじながら、うたったりリズムをうたうことができるかな。</p> <p>いろいろな 音に したしもう いろいろな音に耳をすまして、きれいな音をさがせるかな。</p> <p>ようすを おもいうかべよう ようすをおもいうかべながらきいたり、はめんのようすにあうようにうたったりすることができるかな。</p> <p>たがいの 音を きこう ともだちのこえやがっきの音をききあいながら、みんなでえんそうできるかな。</p> <p>音楽を 楽しもう いままでにならったことを生かして、みんなで楽しくえんそうしたりきいたりすることができるかな。</p> <p>ものがたりと 音楽</p> <p>みんなで 楽しく</p> <p>よい しせいで ひきましよう。/こんな がっきも あるよ。</p> <p>いろいろな 音ぶ・休ふ</p> <p>【国歌】きみがよ</p>

『小学生のおながく 1』『小学生の音楽 2』は、それぞれ72ページで構成されており、学年ご

との分冊になっている。この教科書では、目次に各単元の学習目標や学習内容が明白に記載されていることから、表に目次を抜粋し学習内容をまとめた。(表14)

2-4 フィンランド・日本の音楽科学習内容の比較項目と結果

フィンランドの1-2学年の学習内容と、日本の小学校1-2学年の学習内容と比較し、その特徴を分析する方法として、日本の『小学校学習指導要領 第2章 第6節 音楽 第2 各学年の目標及び内容 第1学年及び第2学年の「2 内容 A表現」「共通事項」』⁵⁾(平成20)で取り上げられている、「音楽の活動分野」と、「音楽を形づくっている要素の学習」の2項目について、フィンランドの1-2学年の12単元の学習内容と、日本の1-2学年の学習内容を照合し、その結果を表にまとめた。(表15)

表15 フィンランド・日本の1-2学年の音楽科学習内容比較

		フィンランド『MUSIKIN mestarit 1-2』	日本『小学生的のがく1』『小学生的の音楽 2』
学習内容の領域	歌唱	<ul style="list-style-type: none"> 自分の声を意識し、発声を工夫することによって生まれる音楽の流れを感じる。 動物の鳴き声から、声には色々な高さがあることを学ぶ。 言葉のリズムを大切に、拍に乗って歌う。 カンテレの伴奏に合わせて、長調・短調の音楽の雰囲気を感じながら歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 姿勢をよくし、音の高さを階名と手の位置で確かめ、様子を思い浮かべ歌詞を大切にしながら歌う。 拍子を感じながら、また、身振りをつけながら、みんなの声を聴き合いながら歌う。 物語から登場人物の気持ちを感じ取って歌い方の工夫をする。 歌声や楽器の互いの音を聴き合って演奏する。
	器楽	<ul style="list-style-type: none"> フィンランドの伝統楽器カンテレの演奏や伴奏を通して、和音の響きを感じる。 弦楽器、木管楽器・金管楽器・打楽器にどのような楽器があるか、また、その音にはどんな特徴があるのか、実際に音を出して調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカのポジション移動、指かえの奏法を学び、リズムに乗って、拍子を感じながら演奏する。 カステネット、タンブリン、鈴、トライアングルの奏法を知り、色々な音に親しむ。 身の回りの色々な楽器に挑戦し、どのように聞こえたかを自分の好きな音で表現してみる。 歌声や楽器の互いの音を聴き合って演奏する。
	音楽づくり	<ul style="list-style-type: none"> ター(4分音符)、ティ(8分音符)、タウコ(4分休符)の組み合わせで自分のリズムを創作し、その自分のリズムにclefの音をつけ、さらに歌詞をつけ、音楽づくりをする。 カンやロンド形式といった音楽の形式を学ぶ方法として、自分の創作したリズムを反復したり、変奏として用いたりして、みんなの一つの音楽づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> タン(4分音符)、タ(8分音符)、ウン(4分休符)、ウ(8分休符)の組み合わせで自分のリズムづくりをする。 ドレミファソの中から音を選んで2小節8拍分の旋律をつくり、歌ったり鍵盤ハーモニカで弾いたりする。
音楽を形づくっている要素	音色	絵からどんな特徴のある音色かを考えて言葉で表現をしたり、多種多様な楽器の音を実際に音にして出し、それぞれの音色を感じる。	
	リズムや拍	<ul style="list-style-type: none"> 脈拍やフィンランド語の音節といった身近な拍やリズムを知ることから、ロックのリズムに合わせて踊ったり、ラップのように言葉のリズムに合わせて歌ったりしながらさまざまなリズムに触れる。 ティティやターを組み合わせた色々なリズムをつくり、2/4拍子、3/4拍子、4/4拍子とリズムの関係を調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 名前、子どもたちの遊び歌、日本語の音節に合わせ身近な拍やリズムを知る。 2/4拍子、3/4拍子を手拍子や合奏を通して感じ、拍のまとまりや、リズムの組み合わせをつくり、拍子と拍との関係を知る。
	旋律やフレーズ	発声を工夫することによって生まれるフレーズを、曲の旋律の動きに対応させて感じる。	
	強弱	音の強弱を天気の様子と関連付けて感じ、カノンの表現に音の強さの変化を加えて、その表現に変化をつける。	<ul style="list-style-type: none"> やまびこ遊びや掛け声の受け応えによって音の強弱を意識する。 様子を思い浮かべ、その様子にあった強弱を考えて演奏する。
	和音や音の重なり	<ul style="list-style-type: none"> カンテレの弦を抑えてつま弾くと生じるI・IV・Vの和音の響きを感じる。 I・IV・Vの和音を通して、長調と短調の響きを感じる。 CDEFGの5音をカノンで音を重ねることから生まれる和音の響きを感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きな音を身の回りから探し、リズムに合わせて音を加え、音の重なる面白さを感じる。 輪唱でお互いの声を聴き合いながら歌う。
	音楽の形式	カノンやAB形式、ABC形式、ロンド形式をリズムづくりや音楽づくりを通して理解する。	輪唱や鍵盤ハーモニカ奏の「違いかけっこ」で、カノン形式を意識する。
	音楽のジャンル	<ul style="list-style-type: none"> フィンランドの民謡やサーメのヨイクなどの自分の国の歌や音楽に触れる。 世界の民謡や、有名な作曲家の曲に親しむ。 子どもたちを含む、フィンランド人の作詞・作曲の音楽に親しみ表現する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本のわらべ歌や文部省唱歌に親しむ。 諸外国の民謡に日本の歌詞をつけた歌、諸外国の遊び歌に親しむ。 邦人の作詞・作曲の音楽に親しみ表現する。
	音符、休符、記号や音楽に関わる用語	<ul style="list-style-type: none"> 音符の各部の名称や5線と加線を理解する。 clefの音の、五線以上の位置を確認する。 強弱記号の意味を理解する。 4分音符、8分音符、4分休符をリズムの学習から学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカの演奏に出てくるc1からd2までの音を階名で読む。 4分音符、8分音符、4分休符、8分休符をリズム学習から、2分音符を学ぶ。

2-5 フィンランドと日本の小学校1-2学年音楽科学習内容の比較・考察

次に、フィンランドと日本の1-2学年の学習内容の共通点・相違点を比較検討し、考察を行った。

<音楽の活動分野について>

歌唱活動では拍を大切に、器楽活動では身の回りの楽器の音に親しむ、音楽づくりの活動では自分のリズムの創作からみんなで一つの音楽を作り上げる、というそれぞれの学習は、両国の共通した学習内容である。一方、歌唱活動において、フィンランドでは声の流れやフレーズを感じる学習であるのに対し、日本では音の高さを意識し、様子や場面に合わせて歌う学習となっている。

器楽活動では、活動の中心となる楽器が、カンテレ（文末添付資料 図2）と鍵盤ハーモニカと異なる。この1-2学年で取り上げる楽器の違いが、歌唱の学習内容や、音楽を形づくっている様々な要素の学習内容の違いに、大きく関与しているといえる。

<音楽を形づくっている要素の学習について>

リズムや拍子の学習は、音楽を特徴づけている要素の学習の始めに取り上げられ、他の要素の学習内容や歌唱・音楽づくりの活動分野と関連が深く、1-2学年での音楽科学習の中心的な位置を占めている点は、両国に共通する学習内容である。1-2学年の年齢の子どもたちは、音楽を聴いたり歌ったりすると自然に身体が動き、様々な音楽の要素のなかで、リズムに興味を示して楽しむことができる。このような心身や音楽的能力の発達特性から、リズムや拍子の学習は、1-2学年に適した内容であり、フィンランド・日本の双方が同じ見解に基づいて、1-2学年で重点を置いていると考えられる。

加えて、フィンランドにおけるリズムや拍子の学習は、自分のリズムづくりの学習を出発点として、友だちのリズムを加えていくことでできる様々な音楽形式を学ぶ学習に発展していることから、より広範囲に亘る音楽を特徴づけている要素の学習に関係を持っているといえる。

音楽のジャンルにおいて、自国の音楽を中心に諸外国の音楽を採り上げている点は、両国の共通の学習内容である。しかし、フィンランドの教科書には、子どもたちが作詞作曲した曲や、音楽史上の有名な作曲家の音楽作品、長調だけでなく短調の音楽、伝唱歌や民謡、行進曲や舞曲、ラップ音楽などが採り上げられている。これらの点において、フィンランドの教科書では、日本より広範囲に亘る音楽のジャンルの曲を採り上げ、フィンランドの音楽科教育の特徴として挙げた「広いジャンルの音楽を取り上げていること」が明白となっている。

しかしながら、フィンランドと日本の学習内容で一番の相違点は、和声や音の重なる学習である。日本の小学校では、中学年で学ぶ音の重なりや調、高学年で扱う和声の響きが、フィンランドでは低学年からの学習内容として扱われている。これは、1-2学年でカンテレというフィンランド民族楽器を取り上げていることが要因といえる。カンテレは、誰でもが弦を爪弾き、弦をいくつか抑えるだけでさまざまな響きが生じる楽器であるので、低学年の子どもたちが遊びながら自然に

和声の楽しさ体験できる楽器として、フィンランドの1－2学年での器楽学習で取り上げることは適切であると考えられる。

一方、日本では1－2学年で鍵盤ハーモニカを取り上げているが、その演奏のためには、読譜の学習が必要である。例を挙げると、1点ハ音から2点ニ音までの9音を階名で読んだり、歌唱曲でも階名唱を扱ったりと、読譜の学習に多くの時間と努力が子どもたちに必要とされる。その上、鍵盤ハーモニカの演奏には、指かえやポジション移動といった、複雑な奏法が必要である。

この点においてカンテレは、初歩の段階では、特別な練習があまり必要とされない楽器であるので、子どもたちの音楽的能力の差や経験が演奏にあまり大きな影響を与えないと考えられる。PISAにおいて好成績を挙げた理由の一つに、フィンランドの教育が「平等」の精神に基づいているからであると、フィンランド国家教育委員会は示しているが、カンテレを扱った器楽学習も、その「平等」の精神を表している一例といえるのではないだろうか。

さらに、読譜においては、CDEFGの5つの音についての記述はあるが、実際の学習としては、clelg1の3音を楽譜から見つけるだけで、日本ほど重要視されていない。読譜に時間や労力を必要とする学習より、絵から音色をイメージしたり、音の強弱を天気の変化に結びつけたりと、想像力を膨らませて表現する学習に重点を置いている。このように、より幅の広い音楽の要素の学習に取り組むことも、フィンランドの学習内容の特徴といえる。

フィンランドの音を重ねて響きを感じる学習では、必要な音だけを音板をはめ込んだ木琴、すなわち、ドイツのカール・オルフ⁶⁾によって考案されたオルフ楽器の導入を見て取ることができる。また、旋律やフレーズについての学習では、発声によってどのように音が流れるかを絵や線で描き表したり、記譜された旋律に音の流れを線で書き表したりと、アメリカ合衆国のモートン・フェルドマン⁷⁾によって発案された図形楽譜の要素を取り入れた学習が窺える。フィンランドの音楽科学学習には、「ヨーロッパやアメリカの様々な音楽教育法が導入されていること」という特徴が、教育法だけでなく表現方法にも表れていることが、今回の比較検討から明らかになったといえる。

Ⅲ. 音楽科教科書で採り上げられている曲の調性・拍子・音域

フィンランドと日本の音楽科教科書の学習内容を検討するに当たり、両国それぞれの採用曲も学習内容に関連する事項である。『MUSIKIN mestarit 1－2』から138曲、『小学生のおんがく 1』『小学生の音楽 2』から鍵盤ハーモニカ演奏のためのドレミの楽譜を含む55曲について、曲の構成に関する要素の中から調性、拍子、音域について分析と考察を行った。

3-1 調性についての比較・考察

表16 採り上げられている曲の「調性」

調性		調性	C:	D:	E:	F:	G:	A:	H:	B:	計
			曲数	曲数	曲数	曲数	曲数	曲数	曲数	曲数	曲数
長調	フィンランド	曲数	32	25	0	26	5	3	0	5	96
	日本	曲数	35	0	0	12	3	0	0	0	50
		調性	c:	d:	e:	f:	g:	a:	h:		計
	フィンランド	曲数	6	16	5	0	0	4	2		33
	日本	曲数	0	0	0	0	0	0	0		0
		調性	D:⇒d:⇒D	F:⇒d:	c:⇒C:	d:⇒D:	d:⇒B:	d:⇒F:	a:⇒C:		計
短調	フィンランド	曲数	1	1	1	1	1	1	1		7
	日本	曲数									*1)2
転調	フィンランド	曲数									*2)5
	日本	曲数									

*1) 口誦の曲で、特に調性は認められない。

*2) わらべ歌やあそび歌で西洋音楽の調性分類に入らない曲

日本の教科書には、わらべ歌やあそび歌を除く45曲がC:F:G:の3つの調性で書かれた曲で、短調や転調の曲はない。それに対し、フィンランドの教科書では、日本と同様にC:F:G:の3つの調性で書かれた曲が多いが、さらに短調や転調の曲が、調性を持つ136曲中40曲（約29%）を占めており、多様な調性を扱っていることがわかる。

フィンランドで短調の曲の扱いが多いことは、カンテレの曲や民謡に短調の音楽が多いことと、教科書に採り上げられた曲だけでなく、フィンランドの音楽全体に短調の音楽が日本の音楽に比べて多いことに由来すると考えられるが、明確ではない。しかし、暗く長い冬、ロシアやスウェーデンに長く支配され抑圧されていた歴史、フィンランド人の国民性などが、短調のもつ性格に反映されているのではないだろうか。

3-2 拍子についての比較・考察

表17 採り上げられている曲の「拍子」

拍子		2/4拍子	3/4拍子	4/4拍子	6/8拍子	2/2拍子	*3)その他	*4)不明	計
		曲数	曲数	曲数	曲数	曲数	曲数	曲数	曲数
拍子	フィンランド	27	17	75	7	8	3	1	138
	日本	23	6	26	0	0	0	0	55

*3) 2/4+3/4 拍子、3/4+2/4 拍子、4/4+2/2 拍子が各1曲ずつ *4) 口誦の曲で、特に拍子は認められない。

日本の教科書には、2/4拍子、3/4拍子、4/4拍子で書かれた曲のみが採り上げられており、それ以外の拍子の曲はない。それに対し、フィンランドの曲は、日本と同様の3種類の拍子が、その他や不明の曲を除く134曲中119曲（約89%）と多いが、18曲（約13%）が、2/2拍子や6/8拍子など、色々な組み合わせを持つ曲である。

2/2拍子はもとより、6/8拍子はアクセントの位置が1拍目、4拍目にあり2拍子として拍を感じることができることから、2拍子の曲として扱うことができ、また、その他の拍子の曲は、口誦の

曲やラップ音楽であることから、言葉のリズムを書き表した曲であるため、拍子の表記に多様性が生じていると考えられる。

3-3 下限音と上限音についての比較・考察

表18 採り上げられている曲の「下限の音と上限の音」



日本の教科書で採り上げられている曲の音域の下限は、c1（1点ハ音）からf1（1点ヘ音）の幹音のみで、c1が31曲と、全体の約56%を占めている。それに対し、フィンランドの教科書で採り上げられている曲の下限は、c1より低いg（ト音）からh（ロ音）に50曲（約32%）とc1の50曲（32%）と、全体で100曲（約64%）あり、日本の下限音に比べて低いといえる。また、日本の下限音にはみられない派生音b1（1点変ロ音）、cis1（1点嬰ハ音）、es1（1点変ホ音）が10曲（約7%）あり、採り上げられている曲の調性によって派生音が使用されることによるものであるといえる。

上限音に関して日本の曲では、c2（2点ハ音）、d2（2点ニ音）に39曲と、全体の約71%になっている。それに対し、フィンランドの曲の上限音は、a1（1点イ音）が46曲（33%）と、全体の約1/3を、また、a1からc2までが121曲（約88%）を占め、日本の上限音に比べて低いといえる。下限音と同様、fis1（1点嬰ヘ音）、as1（1点変イ音）、b1、cis2（2点嬰ハ音）といった派生音が20曲（約14%）使われているが、これは下限音の派生音に関する理由と同様であると考えられる。

以上のことから、採り上げられている曲の下限・上限の音が低い、すなわち音域全体が低いことが特徴として挙げられる。フィンランド人の子どもの体格が、日本人の子どもの体格に比べて大きいことに一つの要因があるのではないだろうか。記譜されている曲が、1-2学年の子どもたちが素直に出せる声の高さであると考えれば、体格が日本の子どもたちより大きく声帯が太くて長いので、低い音域の歌唱の曲が扱われているであろう。しかし、すべての楽曲は、高くも低くも移調して取り上げることが可能であることを考慮すると、なぜ音域が日本の子どもたちの曲より低いのか、明確な理由は不明である。音域の問題については、今後の研究課題としたい。

おわりに

本研究で、フィンランドの教科書から1-2学年の学習内容の分析を通して、筆者が指導や視察を通して得たフィンランドの小学校音楽科教育の三つの特徴のうち、「リズム教育の重視していること」は、日本の1-2学年の学習内容と共通しているということが明らかになった。「幅広いジャンルの音楽を採り上げていること」、「ヨーロッパやアメリカの様々な音楽教育法を導入していること」の二つは、フィンランドの教材としての学習内容の特徴として挙げられるが、さらに、今回、日本の教科書の学習内容との比較により、「和声や音の重なる響きを大切にすること」が、大きな特徴として新しく付加されることとなった。

日本の教科書は『小学校学習指導要領』に準じており、掲げている学習目標や学習内容は、明白である。一方、フィンランドの教科書は教材集・曲集の一つであり、教師の裁量で、学習目標や学習内容を設定することが可能である。今後、フィンランドの音楽科教育の本質を追及していくためには、教育内容の全体的な枠組みである『The National Core Curriculum for Basic Education』(2004)から、学習内容のガイドラインを知ることが必要である。さらに日本の教科書との比較を進めるにあたり、日本の『小学校学習指導要領』と現行の音楽科教科書の各単元での学習内容についての研究も深める必要がある。

引き続き1-6学年の教科書分析を通して、フィンランドの小学校音楽科で子どもたちは何を学ぶのか、学習内容で特筆すべき学びは何かをさらに検証し、日本の小学校音楽科教育において、フィンランドから学ぶことは何かを探っていきたい。

謝辞 『MUSIIKIN mestarit』のフィンランド語表記の翻訳に関し、北海道大学外国語教育センター非常勤講師水本秀明先生のご指導をいただきましたことを、感謝申し上げます。

表 2－表 13 『MUSIIKIN mestarit 1－2』音楽学習内容に関するフィンランド語表記と和訳一覧

表 2 単元 1 <YKSIN, KAKSIN, YHDESSÄ一人で、二人で、みんなで>

学習内容に関する表記(カッコ内は筆者による内容解説)	
Syke 脈拍	1.Etai ja näytä oma sydämen sykkesi sormella. あなたの脈拍を手の指で探して示しなさい。 2.Läydätkö jonkun, jolla sydän lyö samaan tahtiin? 心臓と同じようなテンポで打つ何かを見つけることができますか？ 3.Mikä on sinun ikkoma kävelyrytmiä? あなたの歩くリズムはどんなでしょうか？ 4.Miten voit nähdä rytmejä? Tutki ympäristöäsi. どこでリズムを知ることができますか？ あなたの周りを調べなさい。
Syke ja sanarytmi 拍と言葉のリズム	4.Tutki. 調べなさい。(フィンランド語の単語の音節とリズムを対応させる。)
Rytmin merkikkeitä リズムのサインと記号	5.Yhdistä sormellasi nimi ja rytmitahtia. 指で名前をリズムの書かれているボード(板)と結びつけなさい。 (フィンランド人の名前をいくつかの音節に分け、ターティティ・タワコを組み合わせた色々なリズムを表す板を置く。)
Miten ääntä voi kuvata? どのようにして声を表すことができますか？	1.pitkää matalaa ääntä 6.tasaisesti laskevaa ääntä 長く低い声 なめらかに下がっていく声 2.lyhyttä matalaa ääntä 7.sallollevaa ääntä 短く低い声 うなりのある声 3.pitkää korkeata ääntä 8.portaittain nousevaa ääntä 長く高い声 階段のように上がっていく声 4.lyhyttä korkeata ääntä 9.portaittain laskevaa ääntä 短く高い声 階段のように下がっていく声 5.tasaisesti nousevaa ääntä なめらかに上がっていく声

表 3 単元 2 <KESÄ MUISTOIKSI 思い出の夏>

学習内容に関する表記(カッコ内は筆者による内容解説)	
Tutkimme musiikin merkikkeitä 音楽用語を調べます。	Musiikkia kirjoitetaan nuoteilla. 音楽は音符で書き表すことができます。 Nuotit voivat näyttää esimerkiksi tällaisilta: 音符は例えばこのように表します。(4分音符、8分音符、2分音符、付点4分音符、16音符の提示)
	Nuotin osat ovat: 音符の各部の名前 nuppi varsi välikä palkki piste 符頭 符尾 符鉤 連符 付点 Nuotit kirjoitetaan nuottiviivaston viivoille, väleihin ja apuviivoille. 音符は5線上、間や加線に書きます。(線上の音、加線の音をト音記号の書かれた5線上に提示)
	Nuottivain aloittaa nuottikirjoituksen. ト音記号が、楽譜をスタートさせます。 Tutki melodiota. メロディを研究しなさい。(楽譜上に書かれたメロディラインを線でつなぎ、その動きを5つの言葉で表現)
	tasainen nouseva laskeva なめらかな 上昇する 下降する aaltolleva portaittain nouseva うねりのある 段階的に高くなる 1.Ötökkäparttuuri 小さい生き物の楽譜 Eiättäkää hyönteisten lento. hyttynen ampiainen kärpänen sudenkorento 昆虫たちの飛行を図に示しましょう。 蚊 黄蜂 はえ とんぼ (昆虫の飛ぶ様子を線で描写している。)
	2.Yhdistä 結びなさい。 3.Nimeä nuotin osat 音符の各部に名前をつけなさい。 4.Pyydytä ötökät oikeaan haavi 小さい生物たちを正しい網の中につかまえよう。

表 4 単元 3 <TYÖKALUPAKKI 道具箱>

学習内容に関する表記(カッコ内は筆者による内容解説)	
1.Tutki junia. 列車を調べなさい。	(2/4拍子、3/4拍子、4/4拍子の各4小節の中に色々なリズムがターティティ・タワコを組み合わせたリズム板に書かれている。)
	Tahtiosoitus karttoo, kuinka monta rytimerkkiä tahtiin mahtuu. 拍子記号は1小節の中にいくつものリズムの記号が入るかを示しています。
2.Yhdistä sanat oikeisiin kohtiin. 音楽用語と正しい場所を線で結びなさい。	tahtiosoitus tahti tahtiviiva rytimerkki 拍子記号 小節 終止線 リズムの記号 Tahti päättyy tahtiviivaan. 終止線で曲は終わります。
3.Yhdistä oikeat liikennemerkit oikeisiin rytmoihin. 正しい交通標識とリズムを結びなさい。(交通標識の名称の音節とリズムボードを結ぶ。)	stop lii-ken-ne- va-lot bus-si-py-sä-ki pyö-rä-tie suo-ja-tie 停止 交通信号 バス道路 自転車道路 横断歩道
4.Harjoittele lausumaan ja taputtamaan rytmit. リズムを口で言ったり、手でたたいたりして練習しなさい。	
5.Opettele kaksi rytmiä peräkkäin. 2つのリズムを連続して学びなさい。	
6.Keksi rytmieistä oma kehorytmi. リズムからあなたの身体のリズムを作りなさい。	

表 5 単元 4 <SYKSYN SÄVELET 秋のメロディ>

学習内容に関する表記(カッコ内は筆者による内容解説)	
Ukkosmyrsky 激しい雷雨	aurinko tuuli vesipisarot ukkonen 太陽 風 雨のしずく 雷 piano hiljaa crescendo. Voimiatuen forte voimakkaasti dim. hiljentyen ピアノ 静かに クレシェンドだんだん強く フォルテ 力強く ディミヌエンド だんだん弱く
Äänimaailmat 声の風景	1.Soiita kuvat ryhmässä. グループの中で絵を演奏しなさい。 (描かれている水中動物や乗り物のイメージの名称をもとにして、それをリズムに表わす。)
Dynamiikka 強弱法	2.Yhdistä nimeä merkkeihin. 記号と名称を結びなさい。 (記号と用語を結び付ける。)
Italian! イタリア語	3. Italian! イタリア語 (イタリア語で強弱記号の名称を読み、その名称を音節ごとにリズムを刻む。)

表 6 単元 5 <ELÄINTEN SEKAKUORO 動物の混声合唱>

学習内容に関する表記(カッコ内は筆者による内容解説)	
sopraanot, altot, tenorit ja bassot ソプラノ、アルト、テノール、バス	mettähiiri rupikonna kyy lyhytkarvainen mäyräkoira ネズミ ヒキガエル 毒蛇 ダックスフント(短毛のダックスフント)
	suomenhevonen huuheja karhu intiansorsu フィンランドの馬 ワシミズク ヒグマ インド象 (ネズミ、カエル、蛇、ダックスフント、馬、ミズク、ヒグマ、象の動きや声を図や線で表現)
Nuotilla on paikka ja nimi. 音符は音の高さと名前をもっています。	1.Yhdistä. 結びなさい。(5線譜上に書かれた一点八音、一点半音、一点ト音と音を結ぶ。)
	2.Sävelä. Käytä g1-a1 ja c1-sävelä. Merkitse sävelten nimet mallin mukaan. Soita. 作曲しなさい。g1,a1,c1を使いなさい。 モデルを参考にして音名をつけなさい。弾きなさい。 (木琴の鍵盤にC1にボタインの表示があり、ハボトを用い、ティティティティターのリズムで演奏する。)
	3.Keksi omia rytmejä. 自分のリズムを作りなさい。
	4.Tee niistä sävellyksiä. 音の高さをつけなさい。
	5.Voit keksiä myös sanat. 歌詞をつけることができます。

表 7 単元 6 <SATUA VAI TOTTA おとぎ話か本当のお話か>

学習内容に関する表記(カッコ内は筆者による内容解説)	
Sointiväri 音色	Miten soitat keijun? Entä viikingin? どのようにあなたは妖精を演奏しますか？ ヴァイキングは？ (描かれている妖精(お化け)をどんな音の特徴や音色で演奏するのか考えさせる。)
Tutkimme musiikin rakennetta. 私たちは音楽の構造(形式)を調べます。	AB-muoto ABC-muoto AB形式 ABC形式 1.Etsi jaksosta laulu, jossa on AB-muoto tai ABC-muoto. A-B形式かA-B-C形式の歌を探しなさい。
	ABACADA rondomuoto ABACADAの Rond 形式 2.Suunnitelkaa Satuotus-rond, jossa A-osan soittavat kaikki, この章で出てきた生物たちをベースに Rond 形式を作ってみなさい。 B-, C-, ja D-osat soitaetaan pienissä ryhmissä. Aのところは全員で、B、C、Dのところは小さなグループで演奏しましょう
Keksi rytmit. リズムを考えなさい。 (Aの部分は全員で演奏し、BCDの部分は各自で4拍分の創作をする。 変奏の部分があってもAがくり返し出てくる Rond 形式)	

表8 単元7<LINNUNRADAN LAIDALLA 天の川のそばで>

学習内容に関する表記(カッコ内は筆者による内容解説)
1.Linnunratakaanon, rytmikaanon 銀河のカノン、リズムのカノン
2.Yhdistä (惑星の名称とリズムを書いた板を結ぶ。) 結びなさい。
3.Valitse neljä planeettaa. Kirjoita rytmnit paperille. Harjoittele. 4つの惑星を選びなさい。リズムを紙に書きなさい。そして練習しなさい。 Sano rytmiä parin kanssa kaanonissa. ペアの人とカノンであなたのリズムを言いなさい。 Toinen aloittaa, kun ensimmäinen on sanonut kaksi planeettaa. 2番目の人は、1番目の人が2つの惑星の名前を言ったあとスタートします。
4.Kalenterikaanon, melodiakaanon (1月から12月までをメロディをつけて言いながらカノンにする。) カレンダーのカノン、メロディのカノン
5.Aamukaanon, äänikaanon (いびきの音と目覚まし時計のベルの音でカノンにする。) 朝のカノン、声のカノン (音の強弱表現を、カノンに加える。)

表10 単元9<OMILTA MAILTA, OMILTA KYLILTÄ 自分の国から、自分の村から>

学習内容に関する表記(カッコ内は筆者による内容解説)
Metsässä syntyy, korvessa kasvaa, seinällä seisoo, polvella laulaa! Mikä se on ? 森で生まれ、深い森で成長し、壁に立っていて、膝の上で歌っている！それって何？ (カンテレの導入と能を用いた色々な奏法の紹介)
★ Hauin suuren hampahista? カマスの大きな歯からですか？ (フィンランドのカレワラ叙事詩の中の文句の一つカンテレの各部の名称)
★ Kanteleen kielel 4/4拍子 カンテレの弦 (カンテレの弦の番号を言いながら指ではじいて音をだす)
★ Jänis juoksi jäätä myöten 5/4拍子 氷の上をうさが走る (カンテレの曲…弦の番号と伝統的な歌詞の表記のみ)
★ Kukon leipä 2/4拍子 おんどりのパン (カンテレの曲…弦の番号と伝統的な歌詞の表記のみ)
★ Hiiri naitto tyttärensä 5/4拍子 ねずみが娘を結婚させる (カンテレの曲…IとVの和音で使用する弦の番号と歌詞の表記)
★ Sormin soitti Väinämöinen 5/4拍子 ヴァイナモイネンは指で演奏した (カンテレの曲…IとVの和音の弦の番号とフィンランド民謡の歌詞の表記)
★印は楽譜の記載がなく歌詞のみが記載されている曲…カンテレを伴奏として演奏しながら歌を歌う学習の曲

表12 単元11<SOITTO SOI 楽器は鳴り響く>

学習内容に関する表記(カッコ内は筆者による内容解説)
Tutkimme ääntä. 私たちは音をしらべます 1.Tutki ja kokeile. Laita merkki oikeaan kohtaan. 調べて試しなさい。正しい場所(表の)に印をつけなさい。
Äänen taso korkea matala 音の高さ 高い 低い
Voimakkuus hiljainen voimakas 強さ 弱い 強い
triangeli piano kehärumpu marakassi kellopeli klavesit トライアングル ピアノ フレームドラム マラカス 鉄琴 クラベス
penaali nokkahuilu kantele ウッドブロック リコーダー カンテレ (トライアングル、ピアノ、太鼓、マラカス、鉄琴、クラベス、ウッドブロック、リコーダー、カンテレの9種類の楽器が取り上げられ各楽器から出る音を、音の高さ、音の長さ、音の強弱を表にチェックし、音色については絵や言葉で表記する。)
2.Yhdistä soittimet oikeisiin soitinperheisiin. (楽器の絵と楽器群の名称を結ぶ。) それぞれの楽器と楽器のグループを結びなさい。 jousisoittimet 弦楽器 puupuhaltimet 木管楽器 vaskipuhaltimet 金管楽器 lyömäsoittimet 打楽器

表9 単元8<TALVEN LUMOA, KEVÄÄN ILOA 冬の魅力、春の喜び>

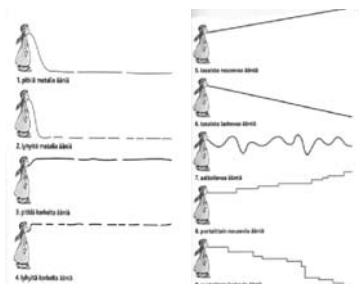
学習内容に関する表記(カッコ内は筆者による内容解説)
Tasajakainen 一定の間隔で分けること 1.Rytmin lyöminen kahteen. (右手で指揮をする場合の2拍子の振り方が記載されている。) 2拍でリズムを打つ 2.Rytmin lyöminen neljään. (右手で指揮をする場合の2拍子の振り方が記載されている。) 4拍でリズムを打つ
Kolmijakainen 3つに分けること 3.Rytmin lyöminen kolmeen. (右手で指揮をする場合の3拍子の振り方が記載されている。) 3拍でリズムを打つ 4.Yhdistä oikeat tahtiosoitukset, lyöntikaavat ja rytmimerkit. 正しい拍子記号と、指揮の図と、リズムが書かれた板を結びなさい。

表11 単元10<MAAILMA ON KYLÄ 世界は一つの村>

学習内容に関する表記(カッコ内は筆者による内容解説)
Soolo-tutti 独奏ー全員で演奏 (木琴のCDEFG鍵盤を演奏して和音を作る。)
1.Harjoittele TUTTI-osuus: 全員で演奏の部分を練習しなさい。 2.Keksi c-,d-,e-,f- ja a-säveliä oma soolo. C-D-E-G-Aの音の高さで自分のソロを作りなさい。 3.Soitakaa yhdessä. 一緒に演奏しなさい。 (全員で演奏の部分はCDEGAGEDCCCの順に演奏、8分音符と4分音符の組み合わせでリズムを刻む。) (ソロの部分は各自で自由に5つの音を組み合わせで創作演奏、4分音符と4分音符のくり返しのリズムを刻む。) (全員ーソロー全員ーソロ…と順次繋いで演奏。)
Harmonia 和声 4.Soitakaa yhdessä. Mitän sointi muuttuu, kun säveliä tulee lisää? 一緒に演奏しなさい。音が加わっていくと、どのように響きは変わりますか？ (C-E-G-F-Dの順に音を重ねて和音の響きをつくる。)
5.Yksi oppilaista on kapellimestari, joka antaa soittovuoron kunkin sävelen soittajalle. 一人の生徒は指揮者になります。指揮者は一人一人の音の高さの演奏の順番を指示しなさい。

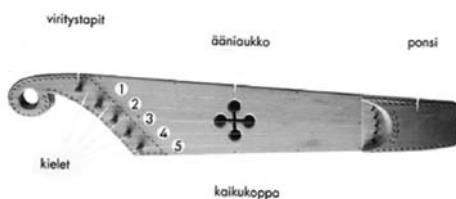
表13 単元12<JUHLIMAAN! お祝いしましょう！>

学習内容に関する表記
Isänpäivä 父の日 Itsenäisyyspäivä 6.12 独立記念日12月6日 Joulun aikaan クリスマスの時に Marssi 2/4 マーチ2/4拍子 Valssi 3/4 ワルツ3/4拍子 Pääsiäinen イースター Vappu 1.5. メーデー5月1日 Äitienpäivä 母の日



『MUSIIKIN mestarit 1-2』p22-23 より引用

図1 線で表された声の流れ



『MUSIIKIN mestarit 1-2』p151 より引用

図2 フィンランドの民族楽器カンテレ

注 (Note)

- 1) 『フィンランドの音楽教育 I—日本フィンランド学校での指導とフィンランドの小学校音楽科授業視察を事例として—』 田原昌子 プール学院大学研究紀要 第49号 (2009) で、筆者は日本・フィンランド学校での指導経験とフィンランドの小学校音楽科授業視察を通して、フィンランドの小学校音楽科教育について報告をおこなった。
- 2) 日本では、学校教育法の下、教科書検定審議会の審査に合格した教科書を使用し、授業実践がされている。
- 3) 目次の各項目を子どもたちの学習活動の一つのまとまりと考え、単元という言葉を使用した。
- 4) ヨイクとは、スカンジナビア半島北部ラップランド、ロシア北部に居住する少数民族サーメ人の無伴奏の即興歌。基本的には無伴奏である。
- 5) 『小学校学習指導要領』では、音楽科の指導内容について、「A 表現」「B 鑑賞」の2つの領域と「共通事項」で記述されている。この研究で分析を行った日本の教科書には、CDの絵が付加され、どの教材が鑑賞教材として扱われるかが明らかである。それに対し、フィンランドの教科書からは、どの教材を鑑賞教材として扱うかどうかの指示は記されていない。この理由から、学習内容の分析の観点を3つの「音楽の活動分野」と「音楽を特徴づけている要素」に絞った。
- 6) カール・オルフ (1895-1982) ドイツの作曲家・教育者 代表作品群に『オルフシュールベルク』がある。
- 7) モートン・フェルドマン (1926-1987) アメリカ合衆国の作曲家 彼の図形楽譜の発案は、現代音楽の作曲家たちに大きな影響を与えた。

引用・参考文献

- ・ Liisa Kaisto, Sari Muhonen, Salla Peltola 著 『MUSIIKIN mestarit 1-2』 OTAVA社2008
- ・ Juha Haapaniemi, Elina Kivelä, Mika Mali, Virve Romppanen 著 『MUSIIKIN mestarit 3-4』 OTAVA社2009
- ・ Mika Mali, Tuuli Puhakka, Tarja Rantaruikka, Kari Sainomaa 著 『MUSIIKIN mestarit 5-6』 OTAVA社2009
- ・ The Finnish National Board of Education 『The National Core Curriculum for Basic Education』 2004
http://www.oph.fi/english/education/basic_education/curriculum
- ・ 波田野 亘 著 『フィンランド語日本語 辞典』 2010
- ・ 福田誠治 『こうすれば日本も学力日本ー フィンランドから本物の教育を考える』 朝日新聞出版2011
- ・ 佐藤 学 澤野由紀子 北村友人編著 『未来への学力と日本の教育 揺れる世界の学力マップ』 明石書店 2010
- ・ 小林朝夫 著 『子ども「頭のよさ」を引き出す フィンランド式教育法』 青春出版社 2010

- R. ヤックーシーヴォネン H. ニエミ『フィンランドの先生 学力世界一のひみつ』桜井書店 2008
- 鈴木 誠他5名『フィンランドの理科教育 高度な学びと教員養成』明石書店 2008
- 庄井義信 中嶋 博『未来への学力と日本の教育 フィンランドに学ぶ教育と学力』明石書店 2005
- 小原光一 他12名著『小学生のおんがく 1』『小学生の音楽 2』教育芸術社 2010
- 小島律子 他30名著『小学校音楽科の学習指導 一生成の原理による授業デザイン』廣済堂あかつき株式会社 2009
- 文部科学省『小学校学習指導要領解説 音楽編』教育芸術社 2008
- 山本文茂 他50名著 初等科音楽教育研究会編『最新 初等科音楽教育法 小学校教員養成課程用』教育芸術社 2008

(ABSTRACT)

Music Education in Finland II : Study of The Music Curriculum for Primary School Education 1

TAHARA Masako

This study clarifies the basic contents for music education in primary schools in Finland. Comparison of content to be learned for both Finnish and Japanese 1st and 2nd grade primary school students are made. The study also examines characteristics of the content to be learned in Finland and how three characteristics of Finnish music education, obtained in previous research, correspond to the content of textbooks.

Study of rhythm and time were found to be closely related to the content of various music curricula. Finland emphasizes the study of rhythm and both Finland and Japan place rhythm and time at the centre of 1st and 2nd grade music education. A wider genre of music is used in Finland than in Japan. It becomes clear that Finland characteristically introduces various European and American music educational methods.

Two new findings are made in this study. One is that the study of tonality and harmony which are taught between 3rd and 6th grade in Japanese schools are introduced in the lower grades of Finnish primary schools, using a traditional instrument *kantele*. The other finding is that the range of tone of the music in Finland, when compared to Japan, is lower.